

五箇庄ごかのしやう〔木幡こはたより黄檗わうばくに至る間をいふ。此四方に五つの庄あり、山階庄しなのしやう、小野庄をのしやう、木幡庄こはたしやう、伏見庄ふしみのしやう、宇治庄うちのしやう是なり。件の間にあれば号るなり〕

黄檗山わうばくさん萬福寺まんぷくじ〔五箇庄ごかのしやうの南三町許大和田おほわたにあり。黄檗山創建の後は地名を黄檗わうばくといふ。萬福寺まんぷくじの由縁前編に記す、こゝに其脱漏を拾ふて補遺を加ふ〕

○天王殿〔山門の東上壇の地西面にあり〕布袋像〔堂内中央西面に安置す、金色にして坐像三尺許、彌勒仏と称す〕
韋駄天像〔後堂東面に安置す。全身金色にして立像四尺許〕四天王像〔同殿左右に安ず、各々全身金色にして立像九尺許。左の東、多門天。西、広目天。右の東、持国天。西、增長天〕

○大雄宝殿〔天王殿の東西面にあり〕本尊釈迦仏〔堂内に安置す、坐像五尺許〕脇士（左）迦葉（右）阿難〔共に金色にして立像五尺許〕十六羅漢〔左右の壇に安置す、全身金色にして坐像二尺許〕○法堂〔宝殿の後西面にあり〕

○威徳殿〔法堂の後山西面に建、前に石段あり、帝王將軍家の牌を安置す〕

○祖師堂〔北の方南面にあり〕達磨大師像だるま〔全身金色にして坐像三尺許〕

費隠禪師牌〔堂内に安置す〕

○選仏場〔祖師堂の東南面にあり〕本尊観音〔坐像三尺許〕脇士（左）善財童子（右）八歳龍女〔共に立像三尺許。〕

此所坐禪堂なり、仏壇の左右に坐禪の床あり」

○伽藍堂 「南の方北向にあり」 伽藍神像 「椅子に憑、長三尺余、衣服漢土の体、右手に半月を握る、面身金色に一目」

○禪悦堂 「右堂の東北向にあり」 金奈羅像 「中央の壇上に安置す、立像三尺許、面色金色なり、此所食堂」

○牌堂 「選仏場の東南面にあり」 本尊地藏 「坐像一尺七寸許、全身金色なり、同壇左右に檀信の牌を安ず」 ○浴室

〔食堂の後北向にあり、高泉和尚の代建る〕

開山堂 「山門の内北の山下にあり」

隱元像 「椅子に憑、紫衣長四尺許、扨子を持し厨子に安ず。額那伽堂隱元和尚の筆なり」

勅書額 「堂内に掲る、後水尾院隱元に賜ふ国師号の勅書なり。其文に曰、

朕聞臨濟之道クフコトハ行ニ天下ニ。至テ天童双徑ニ光輝益盛ク。唯我日域久乏ク宗匠ニ。幸黃檗隱元キ和尚。受レ請東來シテ立ニ綱宗ヲ

闡ニ揚濟道ヲ大光於レ国。功不レ可磨ス。朕屢ク沾ニ法乳ニ簡スルコト在ニ朕心ニ。特賜ニ大光普照国師之号ヲ以テ旌ニ厥德ヲ欽哉。寬

文十三年四月二日。

○寿藏 「門内の南面にあり。寿藏の文字紺青を以て南面窓戸に書す、窓丸し、隱元の筆なり」

隱元像 「堂形六角にして其内に安ず。又堂の下は截石をもつて囲み、口は南向にして、内に隱元の遺身を安ず、口に

青石の戸あり。戸の銘に曰、開山隱元老和尚之塔、紺青を以て書す。隱元の二字は朱字なり」

隱元碑〔壽藏の下壇の地東の方にあり。碑石和泉石、高さ一丈許、台石亀形白川石、序文は繁によつてこゝに略しぬ。其銘に曰〕

特賜大光普照国師塔銘〔碑銘の上の方篆書を以て横行に書す〕

大日本国城州黄檗山萬福禪寺開山 特賜大光普照国師隱元

■老和尚塔銘 賜進士出身光祿太夫礼部尚書上桂国

太子太師中極殿大学士燕山杜立德拜撰

天生真人無位而尊。 為黃檗祖乃臨濟孫。 壯遊湖海洞徹法源。

須弥芥納巨浸毛吞。 既而瑞世主張宗門。 化網總握玄要掀翻。

鞭撻龍象變化鯨鯢。 迅機電掃熱喝雷奔。 大哉師也名震帝闕。

東來開化沢被三根。 既週能事疾入泥■。 去來無往生死曷論。

松岡一座蒼翠惟繁。 浮囟永鎮正体長孝。 胆之仰之執不懷恩。

恩光万古普照乾坤。

宝永六季歲次己丑四月穀旦